

中学校区で、中学校在籍の学力向上特配（A教諭、B教諭）を小学校で活用している例（小学校における専門的教科指導）

校名	館林市立第八小学校									館林市立多々良中学校						館林市立第十小学校								
	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	学年	1	2	3	特支	計	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20		4	4	4	2	14		3	3	3	3	3	3	2	20	
特配員 活 状 況	A教諭（多々良中置籍 週20.4時間）																							
	○6年算数（毎日1時間、週5時間） （習熟度別少人数指導4コースのうち1コースを担当）									○1年の数学授業 （4時間×2学級 計 週8時間）						○6年算数（毎日1時間、週5時間） （習熟度別少人数指導4コースのうち1コースを担当）								
	○単元テスト時に、次単元の指導のポイント等の 情報交換を行っている。									○1年副担 総合1.4、特支情緒1						○発展的な学習を積極的に取り入れている。 （算数主任を窓口として情報交換）								
	B教諭（多々良中置籍 週22時間）																							
○6年英語活動 （毎週木曜日、週1時間×1学級）									○2年の英語授業 （4時間×4学級 計 週16時間）						○6年英語活動 （毎週金曜日、週1時間×1学級）									
○学級担任・ALT との3人によるTT （随時打合せをもつ）									○2年担任 道徳1、学活1、総合2						○学級担任・ALT との3人によるTT （随時打合せをもつ） 英語活動主任、担任、ALTで									
成 果 (○) と 課 題 (●)	<p>① 兼務教員を活用した教科指導の連携による学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校での授業の進め方を踏襲し、中学校で同様に授業実践することで、めあての設定や振り返りをスムーズに行うことができた。 ○小学校の校内研修において、兼務教員が講師となって研修を行い、単元や授業づくりについて研修を深めることができた。 ●授業の打合せや児童生徒の授業中の様子などについて、情報交換をする時間の確保が課題である。 <p>② 小中学校の9年間を見通した教育課程の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○兼務教員を含め多中・八小・十小で英語・算数の合同の打合せを実施したことで、有意義な情報を得ることができた。 ○実態を踏まえた系統性のある授業づくりや単元構想に努めることができた。 ●兼務教員の教科の専門性を生かしたり、児童生徒の共通の課題を踏まえたりするなど、3校の実態に即した教育課程の作成が課題である。 <p>③ 中一ギャップ解消に向けた中学校への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科小中連携班、学習・生活習慣班、不登校適応班の3つの班からなる「未来サポートプロジェクト」を組織し、兼務教員の実態把握や情報提供を踏まえて、3校の全教職員による実践を展開することができた。 ○生徒の実態をある程度理解した上で、授業実践することができたため、個に応じた支援を行うことができた。 ●兼務教員と6年以外の先生方との関わりを増やすことが必要である。 <p>④ 小中のつながりを考慮した校内研修、生徒指導での連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3校で共通の研修主題を設定し、「育てたい子どもの姿」を共有した。 ○兼務教員が児童の実態（学習面・生徒指導面）を十分理解し、様々な場面で指導に生かすことができた。中学校の学級編成にも生かした。 ●今後も兼務教員が3校の学習面や生徒指導面等の実態を具体的に把握し、3校の全教職員で情報を共有していくことが必要であるとする。 <p>⑤ 兼務教員の活用による学校経営上の効果の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中両方の視点からそれぞれの校種の課題を共有することができた。 ○3校で主体性に関する共通のアンケートを実施し、成果と課題を明らかにした。「自分の夢をかなえたい」など多くの項目で成果があった。 ●今後も3校が連携して、各教科や学級活動、学校行事など、学校全体の様々な場面で計画的・継続的な指導が必要であるとする。 																							